

新型コロナウイルス時代とその後における国際的な債務アーキテクチャ 及び流動性をテーマにした開発資金ハイレベル会合

茂木外務大臣ビデオメッセージ

ジャスティン・トルドー・カナダ首相、
アンドリュー・ホルネス・ジャマイカ首相、
アントニオ・グテーレス国際連合事務総長、

我が国は、新型コロナの発生以来、「誰の健康も取り残さない」との考えの下、国際社会におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に向けて、健康・医療システムの脆弱な途上国に対して 15.4 億ドルを超える対外支援をかつてないスピードで実施してきました。

また、保健分野での取組に加え、途上国の困難な経済状況を改善するため、28.4 億ドルの緊急支援借款を供与してきました。さらに、COVAX ファシリティの枠組みを補完し、ワクチンを一人ひとりに届けるため、コールド・チェーンの整備、保冷設備、運搬手段の提供といった「ラスト・ワン・マイル支援」を行っていきます。

議長、年間 2.5 兆ドルとも言われる SDGs 達成に向けた資金ギャップを埋めるには、民間資金動員が不可欠です。

我が国も、ESG 投資を活性化するとともに、SDGs 達成に向けたソーシャルボンドとして、年間約 5.5 億ドルの JICA 債を発行し、民間資金動員を進めており、民間資金が途上国に向かうための環境整備に引き続き取り組んでいきます。

新型コロナ危機を乗り越えるため、「人間の安全保障」の理念に基づき、グローバル・ヘルスへの対応のみならず、途上国が抱える債務や流動性の問題にもしっかりと対応すべく、我が国として、ポスト・コロナの時代も見据え、主導的な役割を果たしていきます。